

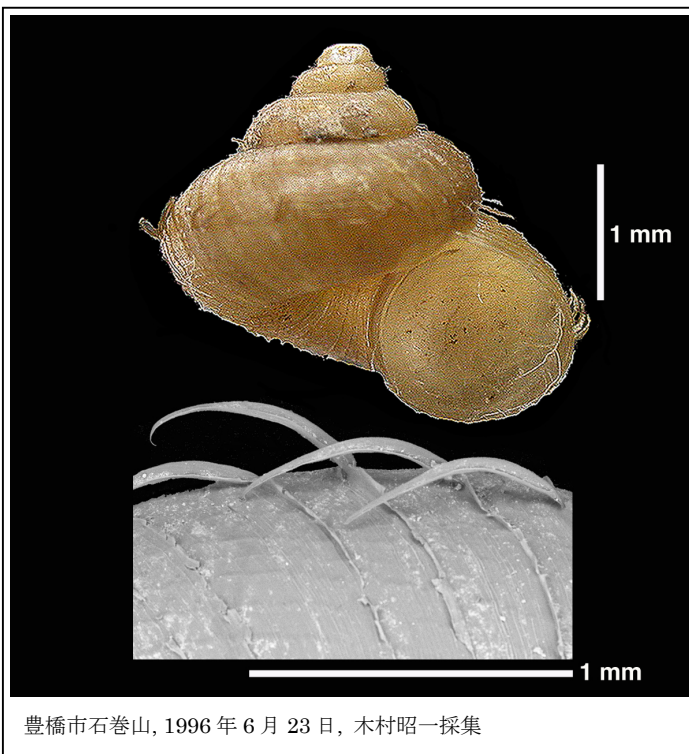
トウカイヤマトガイ *Japonia katorii* Minato

【選定理由】

豊橋市石巻山を模式産地とするヤマトガイ属の1種で、サドヤマトガイに類似するが、体層の毛状付属物は1列をめぐらすことで区別される。良く保全された自然林内の落葉下に生息するが、生息地、個体数とも少ない。

【形態】

殻は薄質で小さく、低円錐形。殻表は汚赤褐色で、螺層は5 1/2層で各層はよくふくらみ、螺管はゆるやかに太くなる。縫合は深く顕著である。周縁上に毛状の殻皮付属物を1列めぐらす。殻口はほぼ円く、殻口縁は薄くて肥厚しない。臍孔は多少小さくて殻径の1/5を占める。蓋は円形で薄く角質で多旋型である。殻高4.4 mm、殻径5.0 mmである。



豊橋市石巻山, 1996年6月23日, 木村昭一採集

【分布の概要】

豊橋市石巻山、鳳来寺山、新城市（旧鳳来町）乗本。県外では静岡県浜松市鷲沢町、鈴鹿山脈に分布することが知られている。

【生息地の環境／生態的特性】

石灰岩地や雑木林の倒木や腐木の下や落葉中に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

前記分布地に生息しているが、極めて稀産である。生息地の乾燥化の進行が減少の要因と考えられる。

【保全上の留意点】

生息地の倒木や腐木、落葉の保護に留意する。

【関連文献】

湊 宏, 1985. 日本産ヤマトガイ属の2種類. VENUS, 44 (2): 82-83. 日本貝類学会.

湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.8. 日本陸産貝類総目録刊行会.

(2009年版(原田)を一部修正)